

書評紹介

■2014年1月19日 信濃毎日新聞
 ■2014年1月26日 神奈川新聞
 ■2014年2月15日 図書新聞・他
 『今後の掲載予定』
 『教育と文化4月号』『子どものしあわせ』等。

■危機に立つ教育委員会

高橋 寛人著

近年、「形骸化している」「責任の所在が曖昧だ」などと批判され、改廃論議にさらされる教育委員会。著者は、教委がなぜ自治体の一部局ではなく合

議制の行政委員会の形を取っているのかに着目し、警察の民主的な管理運営を目的とした公安委員会との比較から、あるべき姿を探る。

「民主主義を前提としながらも、民意や多数決がそのまま教育に反映しないような制度を設けることが必要」と指摘。民意を盾に教育を政治に從属させようとする首長らの動きをけん制する。

(クロスカルチャー出版、1260円)

book

教育委員会の中立性とは

その意義や仕組み、問題点などをわかりやすく解説
 桜井裕三



▼高橋寛人著『危機に立つ教育委員会——教育の本質と公安委員会との比較から教育委員会を考える』12・10刊、A5判・104頁・本体1,000円・クロスカルチャー出版

安委員会との比較から、教育委員会の仕組みを説明している。公安委員会も警察の中立性を確保するために設けられたものだからだ。

教育委員は首長が議会の同意を得て任命する非常勤の有識者である。行政上の指揮監督機関ではなく、教育の専門性にもとづいて学校や教師に助言や指導を行い、公立の教育機関の管理や教職員の人事、学校の組織編制や学習指導、教科書などを扱う幅広い権限をもっている。

著者がくりかえし説くのは、教育行政が教育委員会という特別の組織によって行われている理由が政治的中立すなわち政治から分離されたものだということである。首長

現実の教育委員会に幾多の問題があっても、その運営方法に問題があることを理由に、教育委員会の廃止を主張することは間違いであると著者は述べる。教育の中立性と専門性、世代を超えた長期的視点での継続性や安定性といった、教育行政に不可欠な要素を守る組織として、教育委員会が必要なのである。

教育委員会が住民の意思を反映して教育行政を行うには、教育委員の住民代表性を高める必要があると著者はいう。教育委員候補者の経歴や主張、推薦団体などを明らかにすることなど、具体的な改革の方向性を示し、より存在意義ある教育委員会に向けた提言も盛り込んでいる。

(ジャーナリスト)

二〇〇八年に大阪府知事に就任した橋下徹氏(現大阪市長)は、教育委員会が民意を反映していないとして教育委員会不要論を持ち出し、教育基本条例を制定した。現行法上不可能な教育委員会の廃止に対する代替としての条例であり、教育委員会を知事や市長の支配下に置き、教員の人事権や分限・懲戒処分といった権限まで首長の手中に収めるものだった。教育への政治的介入を排し、中立性を確保するために戦後、GHQの指令で設置された教育委員会は、「民意」を楯にした独断的な首長のコントロール下に置かれるという異常事態となったのである。

教育委員会に対しては、政治的中立性が確保されていないという批判が数多くなされてきた。事実、教科書の採択

や日の丸・君が代の問題をはじめとして、教育委員が教育委員会本来の政治的中立性を旨とする方から逸脱するケースが多発している。だがここに来て、市民の側ではなく行政の長である知事や市長が教育委員会を批判し、それを骨抜きにする挙に出た。

本書はこうした危機的状況に対して、教育委員会の意義とその役割、その仕組み、さらに歴史や問題点などをわかりやすく解説した一書である。人間の思想信条を形づくる教育の中立性の意味を深く掘り下げて考えるために、いま必読のハンドブックだ。

教育委員会が設置されたそもその目的は、前述したとおり教育が政治に左右されず、中立性を確保するためだった。著者は都道府県警察を管理する行政委員会である公

SHAKUJISHORIN
 詩歌句集古書専門
 tel 03(3995)7949
 ★戦前の詩歌集雑誌高価買入
 ★在庫カタログ発行
 石神井書林
 〒177-0041 東京都練馬区石神井町6-8-3